

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 6 年 6 月 30 日現在

機関番号：37402

研究種目：基盤研究(B)（一般）

研究期間：2020～2022

課題番号：20H01651

研究課題名（和文）公害教育実践に利する水俣学アーカイブの構築とその外延

研究課題名（英文）Construction and extension of the Minamata Studies Archive utilized in pollution education practice

研究代表者

井上 ゆかり（INOUE, Yukari）

熊本学園大学・私立大学の部局等・研究員

研究者番号：10548564

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 13,600,000円

研究成果の概要（和文）： 生業・文化、被害・福祉、環境・街創世、アーカイブの4つのグループで授業レビューを作成し授業し学生にアンケート調査後、授業レビューの修正を行った。さらに映像・音声資料を修復・デジタル化し、各担当の授業レビューに視覚的な理解を深める資料を追加した。現在ホームページ上に「公害教育プラットフォーム」として公開準備中である。

これら成果は、デジタルアーカイブ学会と4.16民主市民教育院や社会的惨事特別調査委員会との研究交流集会（韓国）で報告を行った。研究期間はすぎたが、2024年6月に第58回日本文化人類学会研究大会分科会において成果報告を行った。これらの成果は論文として準備中である。

研究成果の学術的意義や社会的意義

当センターには県内外の小学校などから環境教育への教材選定の相談が相次ぎ、社会的に教育モデルが求められていることを実感している。水俣病の資料は膨大で資料選定するだけでも教員には大きな負担となっている。こうしたなかでアーカイブを教育に役立てる道筋を被害当事者らとつくることは、地域課題に向き合う人材を育むことになり差別事件があとをたたない教育現場では社会的意義が大きい。

地方私学で構築してきたこの公害教育プラットフォームが、従来の大学教育の内容および方法の革新を提供でき、他の公害教育でも活用可能となる調査研究で、研究の実施主体および方法の観点から学術的意義の高い研究である。

研究成果の概要（英文）： Four groups, which are essential to understanding Minamata disease: subsistence/culture, damage/welfare, environment/urban revitalization, and archives, created and taught class reviews, and after conducting a student survey, revised the class reviews. Additionally, video and audio materials were restored and digitized, and materials for visual understanding were added to each teacher's class review. We are currently preparing to publish it on our website as a "Pollution Education Platform". These results were reported at a research exchange meeting (South Korea) between the Digital Archive Society, the April 16 Democratic Citizenship Education Institute, and the Social Disaster Special Investigation Committee. Although the research period has passed, the results were reported at the 58th Japanese Society of Cultural Anthropology Research Conference Subcommittee in June 2024. These results are currently being prepared as a paper.

研究分野：社会福祉学

キーワード：水俣病 公害教育 アーカイブ 水俣学 参加型調査

様式 C - 19、F - 19 - 1 (共通)

1. 研究開始当初の背景

熊本学園大学水俣学研究センターが、ホームページ上で公開している水俣学アーカイブへの学校教育実践者からのアクセスは、われわれが予測したより少なかった。これは公開している資料の使いやすさ、あるいは公開における資料編成の難易度(データの並べ方やツリー構造の複雑さ、目録の使い勝手など)の問題だけでなく、学校教育における公害病、なかんずく水俣病に関わる教育実践内容のステレオタイプ化に理由がある。

つまり、学校教育においては、第1に公害被害の実態学習・被害者の声に学び・映像やドキュメント資料の学習をする、第2に公害の原因を探るとして原因企業の行動や被害住民に対する態度やなぜ公害を引き起こしてしまったか、を学び、第3に将来に向けての教訓を考え自分たちの暮らしを問い直すという3つのステップで組み立てられている。しかし実際には、教育現場では教材研究をするゆとりがないまま、ノウハウも枯渇しつつあることを本研究開始前から、全国の小中学校や高等学校の教員からの問い合わせで感じていた。

研究協力者である金翼漢(韓国・明知大学校名誉教授)は、アーカイブ研究者として本学水俣学研究センターに客員研究員として1年間滞在した。水俣病に関わるアーカイブの利活用の実態について研究していた。同氏は、2014年4月に韓国全羅南道珍島郡の観梅島沖で転覆・沈没し299人の犠牲者を出したセウォル号事件の追跡を行い、この沈没事件のアーカイブ文書=記念館を作る構想を深化させようとしていた。しかしながら、セウォル号事件記念館構想と比べて、水俣病に関する資料はかなり見られるにもかかわらず、教育に役立てるような機関やプロジェクトがないことを指摘していた。

本研究は、金教授のこの指摘着想を得て、アーカイブの使い手の育成をアーカイブ構築・発展の中に位置づけ、アーカイブが教育実践に役立てる道筋を関係者と検討していこうというのが、この研究の背景である。

2. 研究の目的

本研究は、すでに体系化されている公害教育のカリキュラムを援用し、被害当事者・市民・多様な専門分野の研究者らと協働し制作した水俣学アーカイブを公害教育へ効果的に活かす手法開発を通して公害教育の地域間・学校間の温度差を解消し、「公害水俣病」に関わる多様な知識や考え方を持つ人材の育成を図ることにある。人材育成にあたっては、地域課題に向き合い解決する力、複雑な相互作用をもつ社会グループとの関係形成能力、国際社会の動向から地域発展まで想像する力を念頭に置き、公害教育モデルを構築する。本申請の特徴として、被害当事者・市民・様々な専門分野の研究者と一緒に独自に制作してきた水俣学アーカイブという集積した水俣病事件のデータを公害教育実践に活用する。

多様な専門分野を持つ研究者がグループ毎に水俣学アーカイブを教材として、「身体的な病」としての水俣病だけでなく、社会的な病である「公害水俣病」を相対的に理解する実践的な授業の手法開発を研究者が提示し、大学教育、小中学校教員、被害当事者、市民を対象とした公害教育モデルを形成することにある。

3. 研究の方法

本研究では、水俣病を理解するうえで必須となる「生業・文化」、「被害・福祉」、「環境・街創世」、「水俣学アーカイブ」の4つの調査教育を研究の柱とし、研究分担者の専門性、連携支援組織を

活かした公害教育に益する研究を進めた。

<生業・文化グループ>は、水俣病発生以前の暮らしの変遷と地域の特徴に至るまでを教育、<被害・福祉グループ>は、未だ認定申請者がいるなかで被害の現状と高齢化する患者たちの抱える福祉的課題を教育、<環境・街創世グループ>は、埋立地などの地域課題と水俣病を核とした街づくり教育を、水俣学アーカイブを活用し行う。<水俣学アーカイブグループ>は、公害アーカイブのあり方を国内外の事例研究を通して再検討するとともに、資料と人をつなぐプラットフォーム構築に努めた。グループ間で綿密な情報共有を行い、グループ毎の主体的な研究活動を推進しつつ全体または連携支援機関と共同作業も随時行い、臨機応変かつ弾力性のある研究組織を目指した。

<生業・文化調査教育グループ>では、水俣病発生以前の不知火海沿岸の人々の生活を生業と文化形成の視点から理解し、水俣病事件が人々の暮らし、地域そのものに与えた影響を考える教育手法を検討した。<被害・福祉調査教育グループ>では、水俣病公式確認から半世紀が過ぎた今も被害の全容が解明されていないなかで社会的な病としての水俣病の被害構造を経済学・障害学・社会福祉学の視点から捉える教育。さらに超高齢となった被害当事者の福祉的課題を考える教育手法を検討した。<環境・街創世調査教育グループ>では、水俣湾埋立地、八幡残渣プールなど環境リスクマネジメント、負の遺産である水俣病の経験を街づくりに活かすことを市民とともに考える教育手法を検討した。<水俣学アーカイブ調査教育グループ>では、資料と教育をつなげ「公害教育モデル」を構築するため、先進的取り組みを行う韓国の明知大学校人間と記憶アーカイブ研究所と連携し、アーカイブそのもののあり方を検討した。そのため、アーカイブグループを中心としながらも、担当者全員が協力し実施。本研究では、最終年度を除く毎年10月に全研究者が参加する研究会を開催し、4つの研究グループが得たデータや研究成果の情報交換を行った。グループ毎の授業レビューなどはアーカイブ化し「公害教育プラットフォーム」を構築し世界に発信することを目指した。

4. 研究成果

初年度は、水俣病を理解するうえで必須となる生業・文化、被害・福祉、環境・街創世、アーカイブの4つのグループごとに、先行研究レビュー、水俣学アーカイブの資料調査、授業レビューを作成し研究会を開催した。コロナ禍において、本学では出張の制限や研究会で人数制限が設けられたため、ハイブリットで研究会を開催した。また、先行する水俣病事件史年表は項目毎に出典が記載されていないため事実誤認が散見され、これまで授業実践に使用できなかったことを鑑み、項目に出典を記載した年表を作成し、ホームページに掲載した。

これらの準備を終えた段階で、学部授業で活用し再度授業レビューの修正、新たな資料調査を行う予定であった。しかし、緊急事態宣言下で国内外問わず現地調査そのものができなくなったこと、本学の方針で100名を超える履修生ではオンラインで授業をすることが求められ、新たな資料の発掘や授業レビューを活用した講義の反応を直接確認することができなかった。これらを踏まえ研究計画を一部見直し国内外の現地調査は次年度に繰り越した。

この成果の一部はデジタルアーカイブ学会第5回大会において「環境教育実践に利する水俣学アーカイブの構築」として報告した。

2年目は、初年度の授業レビューを活用し、本学社会福祉学部の1、3年次以上の学生や熊本県立高校の1年生、医療系専修学校の2年生を対象に講義を行い、受講生や教員にアンケートまたは聞き取り調査を行った。結果、学生からは、資料を活用することで具体的な問題に触れることができ、「これまで習ったことのない水俣病」との反応や自らの差別意識や生き方をあらた

めて考えさせられたとの反応があった。しかし、当時の暮らしが想像できない世代の学生においては、写真や映像、音声など視覚・聴覚的な資料が当時の漁村の暮らしを理解する上で助けになったことが明らかになった。各グループ間で研究会を開催し、当初の計画にはなかった過去の映像・音声資料を修復し、デジタル化をすることが不可欠であると判断し、研究計画の見直しを行った。教員からは、人権学習で環境教育を行ってきたものの、現在に続く社会的課題であることを認識させる学習の提供が必要だと分かったなどの結果が得られた。水俣学アーカイブの映像・音声資料を調査したところ、未公開資料に必要な資料があることが判明した。そのため修復が必要な資料の選定、過去の資料の修復・デジタル化を行い、デジタルアーカイブを活用した授業レビューの修正をした。とくに映像資料の劣化が酷く、修復できる業者の選定と作業に時間がかかった。その後、資料の紛失を防ぐため、映像・音声資料の目録を作成した。

コロナ禍において、本学では出張の制限や研究会は事前に申請書を提出し感染対策本部で承認を得る手続きが設けられたため、オンラインでカナダ水俣病の支援者や韓国のアーカイブ研究者らと意見交換を行った。本学独自の警戒レベルにより韓国、カナダなどの現地調査が不可能になったことで、研究計画を見直し、映像資料の修復費、目録作成のための人件費にあて本研究目的を達成できるよう柔軟に取り組んだ。

最終年度である 2022 年度は、2 年目に修正した授業レビュー、とりわけ映像資料を活用した授業を本学と熊本県立鹿本高校において行い、その反応を学生にアンケート調査を実施した。グループ全体での研究会を開催し、受講生へのアンケート集計、データ入力、結果の分析を行った。文章での意見の記入や自由記入欄はすべてパソコンでデータ化した。これをもとに結果分析を行い、授業レビューに反映した。また、前年度に過去の映像・音声資料を修復し、デジタル化を行った写真や動画、音声を活用し、各担当の授業レビューに視覚的な理解を深める資料を追加し、研究会を開催し修正を行った。そのうえで、公害教育モデルの再検討、公害教育モデルの成果とりまとめを行い、韓国の明知大学校と社会的惨事特別調査委員会との研究会で成果発表のための準備を行った。

公害教育モデルの成果報告会は、当初 2023 年 3 月に予定していたが韓国の受け入れ先との調整で 4 月に延期したため補助金を繰り越した。韓国での成果報告会には、セウォル号の惨事を伝える取り組みを行っている「4.16 民主市民教育院」の所長、データベース構築担当者 2 名、金翼漢（明知大学校名誉教授）、教育庁の担当者 2 名も交えて井上が「水俣学の歴史と未来 水俣学アーカイブ」報告した。さらに、韓国社会的惨事特別調査委員会との研究交流集会において「環境教育に活かす水俣学アーカイブの構築」として報告し意見交換を行った。また、韓国の地元新聞社からの取材も受けた。さらに、研究期間はすぎたが、2024 年 6 月に第 58 回日本文化人類学会研究大会分科会「トラウマ空間とアーカイブ実践」において本研究の成果として井上が「能動的な水俣学アーカイブの構築」として報告した。グループ毎の授業レビューは、アーカイブ化し水俣学研究センターのホームページに掲載するためコンテンツを準備中である。また、これらの成果は『水俣学研究』第 14 号（2025 年 3 月刊行）に投稿論文として準備中である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計21件（うち査読付論文 2件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 11件）

1. 著者名 田尻雅美・井上ゆかり	4. 巻 10
2. 論文標題 『紛争』解決としての水俣病施策（第3回環境被害に関する国際フォーラム）	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 水俣学研究	6. 最初と最後の頁 91-98
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 矢野治世美	4. 巻 798
2. 論文標題 デジタルアーカイブと部落史研究	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 部落解放	6. 最初と最後の頁 66-73
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 田尻雅美	4. 巻 3471
2. 論文標題 書評 野澤淳史著「胎児性水俣病患者たちはどう生きていくかー 被害と障害 補償と福祉 の間を問う」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 週間図書新聞	6. 最初と最後の頁 11面
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 中地重晴	4. 巻 10
2. 論文標題 水俣とカナダの汚染サイトの修復について（第3回環境被害に関する国際フォーラム）	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 水俣学研究	6. 最初と最後の頁 103-109
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 井上ゆかり、花田昌宣、矢野治世美、田尻雅美	4. 巻 4
2. 論文標題 環境教育実践に利する水俣学アーカイブの構築	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 デジタルアーカイブ学会誌	6. 最初と最後の頁 65-68
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 花田昌宣	4. 巻 10
2. 論文標題 失敗の教訓を将来に活かす (第3回環境被害に関する国際フォーラム)	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 水俣学研究	6. 最初と最後の頁 42-47
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 中地重晴	4. 巻 5月号
2. 論文標題 有機フッ素化合物による多摩地域の水道水汚染と住民への影響	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 科学	6. 最初と最後の頁 489-491
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中地重晴	4. 巻 51 (4)
2. 論文標題 PRTR制度の進捗と展開-化管法施行20年を振り返って	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 環境と公害	6. 最初と最後の頁 32-38
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中地重晴	4. 巻 52(2)
2. 論文標題 水俣条約と水俣市周辺の環境問題 - 水俣市の地域再生に関する新しい課題 -	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 環境と公害	6. 最初と最後の頁 39-44
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中地重晴	4. 巻 52(1)
2. 論文標題 大深度地下工事と自然由来重金属等土壌汚染	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 環境と公害	6. 最初と最後の頁 20-25
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中地重晴	4. 巻 11
2. 論文標題 水俣病究明初期の臍帯中水銀濃度分析に関する論考	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 水俣学研究	6. 最初と最後の頁 3-18
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 花田昌宣	4. 巻 145
2. 論文標題 いま水俣は：水俣の産業とエコネット	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 かつら	6. 最初と最後の頁 p4
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 花田昌宣	4. 巻 145
2. 論文標題 2016年熊本地震の自主的な避難所 インクルーシブな運営	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 消防防災の科学	6. 最初と最後の頁 24-27
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 花田昌宣	4. 巻 11
2. 論文標題 水俣学研究の課題と水俣病事件の現在	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 水俣学研究	6. 最初と最後の頁 43-52
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 田尻雅美	4. 巻 216
2. 論文標題 水俣病の歴史と差別の実態	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 部落解放研究	6. 最初と最後の頁 88-112
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 矢野治世美	4. 巻 11
2. 論文標題 感染症と人権ー新型コロナウイルス感染症をめぐる差別ー	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 水俣学研究	6. 最初と最後の頁 21-41
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 藤本延啓	4. 巻 28 (1)
2. 論文標題 環境政策における「理念」と「実際」のギャップ 水俣市円卓会議 における【協働】の変遷から	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 社会関係研究	6. 最初と最後の頁 1-21
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 田尻雅美	4. 巻 3583
2. 論文標題 書評 高岡滋著「水俣病と医学の責任 - 隠されてきたメチル水銀中毒症の真実」	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 週間図書新聞	6. 最初と最後の頁 1-2面
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 田尻雅美	4. 巻 12・13合併号
2. 論文標題 書評 高岡滋著「水俣病と医学の責任 - 隠されてきたメチル水銀中毒症の真実」	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 水俣学研究	6. 最初と最後の頁 147-148
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 井上ゆかり	4. 巻 43
2. 論文標題 一次訴訟判決後から50年 水俣病被害当事者の「かき消されゆく声」	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 同時代史学会News Letter	6. 最初と最後の頁 32-37
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 中地重晴	4. 巻 29(2)
2. 論文標題 住民参加による産廃不法投棄からの原状回復 - 香川県豊島の経験と教訓 -	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 総合科学	6. 最初と最後の頁 55-72
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計30件 (うち招待講演 7件 / うち国際学会 0件)

1. 発表者名 井上ゆかり・花田昌宣・矢野治世美・田尻雅美
2. 発表標題 環境教育実践に利する水俣学アーカイブの構築
3. 学会等名 デジタルアーカイブ学会第5回大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 田尻雅美
2. 発表標題 健康・医療・福祉相談から見える水俣病被害の実態と施策の課題 - 被害者が求めるもの
3. 学会等名 私立大学戦略的研究基盤形成支援事業成果報告シンポジウム「水俣病の現在と水俣学の創造」
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 田尻雅美・井上ゆかり
2. 発表標題 健康・医療・福祉相談から見える水俣病被害の実態と施策の課題 被害者が求めるもの
3. 学会等名 第80回日本公衆衛生学会総会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 藤本延啓
2. 発表標題 市町村の廃棄物政策における「協働」 水俣市円卓会議を事例に
3. 学会等名 西日本社会学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 花田昌宣
2. 発表標題 部落差別と人権：その歴史と現在
3. 学会等名 第39回筑後市同和問題・人権啓発推進大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 花田昌宣
2. 発表標題 人権を保障するインクルーシブな避難所
3. 学会等名 志学館大学
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 花田昌宣
2. 発表標題 障害者を受け入れた熊本学園大学の災害時避難所運営の経験
3. 学会等名 神奈川工科大学 防災・災害ケア講座
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 花田昌宣
2. 発表標題 部落の歴史と部落差別の歴史：長崎絵図に見る差別地名記載
3. 学会等名 第58回全国隣保館職員九州ブロック研修会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 花田昌宣
2. 発表標題 障害者を受け入れた熊本学園大学の災害時避難所運営の経験
3. 学会等名 八戸市社会福祉協議会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 花田昌宣
2. 発表標題 水俣病特措法の成立と今後の課題：今水俣はどうなっているのか
3. 学会等名 八戸市社会福祉協議会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 磯谷明德・花田昌宣
2. 発表標題 公害発生企業チッソの企業体質とその特異性
3. 学会等名 経済理論学会 第69回大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 中地重晴
2. 発表標題 水俣病究明初期の臍帯中水銀濃度分析に関する考察
3. 学会等名 第16回水俣病事件研究交流集会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 中地重晴
2. 発表標題 SDG s で社会は変わるか
3. 学会等名 熊本学園大学海外事情研究所60周年記念
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 中地重晴
2. 発表標題 About Contaminated site in Minamata
3. 学会等名 第4回水俣条約締約国会議のサイドイベント（国際NGO・IPEN主催）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 中地重晴
2. 発表標題 水俣条約と水俣市周辺の環境汚染問題、水俣の地域再生に関する新しい課題
3. 学会等名 第37回日本環境会議九州大会水俣病分科会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 田尻雅美
2. 発表標題 水俣病問題の歴史と現在
3. 学会等名 2022年度部落解放・人権大学講座（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 井上ゆかり
2. 発表標題 女島に惹かれて - 漁村のなかの水俣病
3. 学会等名 水俣フォーラム第120回水俣セミナー（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 井上ゆかり
2. 発表標題 不知火海沿岸漁村の暮らしと水俣病
3. 学会等名 熊本県立鹿本高校2022年度SS国語探究（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 田尻雅美
2. 発表標題 水俣病問題の歴史と現在
3. 学会等名 2023年度部落解放・人権大学講座（招待講演）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 井上ゆかり
2. 発表標題 経済成長最優先の陰で放置された公害 公害被害者に経済学はどう向き合うか
3. 学会等名 特定非営利活動法人アジア太平洋資料センターPARC自由学校ハイブリッド読書ゼミ（招待講演）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 井上ゆかり・花田昌宣・中地重晴・田尻雅美
2. 発表標題 環境教育に活かす水俣学アーカイブの構築
3. 学会等名 4.16民主市民教育員との研究交流集会（韓国）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 井上ゆかり・花田昌宣・中地重晴・田尻雅美
2. 発表標題 水俣学の歴史と未来 水俣学アーカイブ
3. 学会等名 社会的惨事特別調査委員会との研究交流集会（韓国）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 井上ゆかり
2. 発表標題 水俣の揺れるトラウマ、そして水俣学アーカイブとしてのメモリーワーク
3. 学会等名 トラウマ科研におけるメモリーワークと復興事業の文化人類学的研究基盤研究研究会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 井上ゆかり
2. 発表標題 一次訴訟判決後から現在までの水俣病被害当事者の「かき消されゆく声」
3. 学会等名 同時代史学会2023年度大会（招待講演）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 中地重晴
2. 発表標題 水俣周辺に計画されている大規模風力発電と水俣のまちづくりを考える
3. 学会等名 第17回水俣病事件研究交流集会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 中地重晴
2. 発表標題 水俣条約締結10年-成果と課題-
3. 学会等名 第18回水俣病事件研究交流集会
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 康由美・井上ゆかり
2. 発表標題 一次訴訟から50年 権力に抗う水俣のいま
3. 学会等名 MINAMATA for Youth Project第1回（招待講演）
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 佐藤英樹・佐藤スエミ・田尻雅美・井上ゆかり
2. 発表標題 水俣病問題
3. 学会等名 (一社) 部落解放・人権研究所「差別禁止法研究会」
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 井上ゆかり
2. 発表標題 水俣病と原発事故：水俣・福島・そして胎児性世代
3. 学会等名 トラウマ科研におけるメモリーワークと復興事業の文化人類学的研究基盤研究研究会
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 井上ゆかり
2. 発表標題 能動的な水俣学アーカイブの構築
3. 学会等名 第58回日本文化人類学会研究大会分科会「トラウマ空間とアーカイヴ実践」
4. 発表年 2024年

〔図書〕 計4件

1. 著者名 熊本学園大学水俣学研究センター編著	4. 発行年 2024年
2. 出版社 熊本日日新聞社	5. 総ページ数 83
3. 書名 ガイドブック 水俣病を学ぶ、水俣の歩き方 新版 水俣学ブックレット	

1. 著者名 中地重晴	4. 発行年 2023年
2. 出版社 春風社	5. 総ページ数 307
3. 書名 タキ・オンコイ 踊る病	

1. 著者名 富田義典・花田昌宣・チッソ労働運動史研究会	4. 発行年 2021年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 365
3. 書名 『水俣に生きた労働者 チッソと新日室労組の59年』	

1. 著者名 井上ゆかり	4. 発行年 2020年
2. 出版社 藤原書店	5. 総ページ数 346
3. 書名 生き続ける水俣病 漁村の社会学・医学的実証研究	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>熊本学園大学水俣学研究センター https://gkbn.kumagaku.ac.jp/minamata/ 熊本学園大学水俣学研究センター水俣学アーカイブ 横断検索 https://www3.kumagaku.ac.jp/minamata/db/cs_search.php 熊本学園大学水俣学研究センター水俣学アーカイブ 水俣略年表 https://www3.kumagaku.ac.jp/minamata/marchives/chronology/</p>
--

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	花田 昌宣 (花田昌宣) (HANADA Masanori) (30271456)	熊本学園大学・社会福祉学部・教授 (37402)	
研究分担者	東 俊裕 (HIGASHI Toshihiro) (30461619)	熊本学園大学・社会福祉学部・教授 (37402)	
研究分担者	宮北 隆志 (MIYAKITA Takashi) (50112404)	熊本学園大学・社会福祉学部・教授 (37402)	
研究分担者	中地 重晴 (NAKACHI Shigeharu) (50586849)	熊本学園大学・社会福祉学部・教授 (37402)	
研究分担者	藤本 延啓 (FUJIMOTO Nobuhiro) (60461620)	熊本学園大学・社会福祉学部・講師 (37402)	
研究分担者	矢野 治世美 (YANO Chiyomi) (60805977)	熊本学園大学・社会福祉学部・准教授 (37402)	
研究分担者	田尻 雅美 (TAJIRI Masami) (70421336)	熊本学園大学・公私立大学の部局等・研究員 (37402)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------